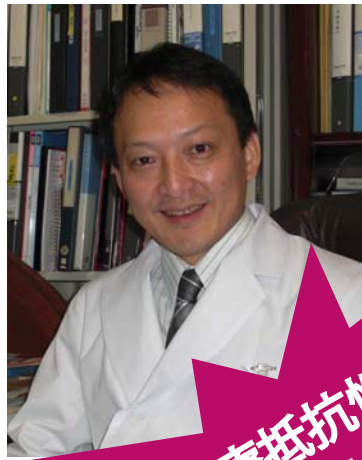


第 20 回大学院医学研究セミナー

ヒト癌発生のメカニズム解析と 新規治療薬の開発

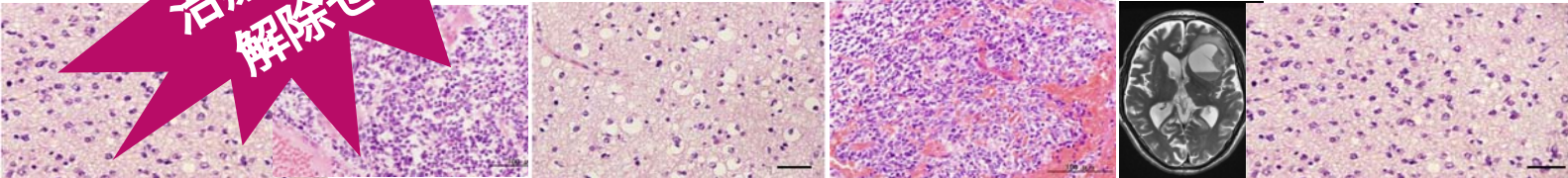


北海道大学大学院医学研究科
腫瘍病理学分野

田中 伸哉 教授

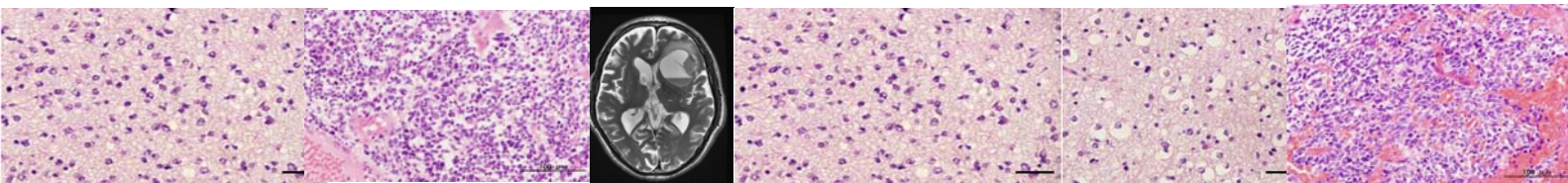
北海道大学医学部を 1990 年に卒業、北大・第二
病理講座に入局後、94-97 年 ロックフェラー大学
(花房秀三郎教授) に留学、2008 年から現職。

治療抵抗性を
解除せよ!



薬剤・放射線・分子標的薬を用いた治療など、悪性腫瘍に対する治療法が開発・実践されているにもかかわらず、治療抵抗性によって完治出来ない症例がある。このような耐性は何によって決まるのだろうか？ どのような研究をしたらそれを明らかにできるのだろうか？

グリオーマ・サルコーマをモデルとして、遺伝子のプロファイリングなどシステムズ・バイオロジーを駆使して、治療耐性と幹細胞性、グリア・間葉移行などの関係がわかってきました。これを元に新たな治療戦略を考えます。



10月17日(木)
18時から
金沢医科大学病院
本館4階
C41 講義室

トランスレーショナルパソロジー
基礎生命科学の研究成果をいち早く
臨床医学に応用することを目指す病理学

